

# 薬用植物園だより

2026年

5月

道端でおなじみの草も、漢方では大切な薬草

## オオバコ(オオバコ科)



*Plantago asiatica* Linné

部位	種子、葉	
生薬名	種子：車前子（シャゼンシ） 花期の全草：車前草（シャゼンソウ）	日本薬局方収載 日本薬局方収載
成分	アウクビン（イリドイド配糖体） プランタゴシド（フラボノイド配糖体）	
薬理	利尿作用、抗炎症作用、鎮咳作用など	
薬能	利尿薬	
漢方	牛車腎気丸、五淋散など	

日本列島を含む東ユーラシア（シベリアからジャワ島まで）に分布する多年生のロゼット草本。踏みつけられても植物の大きさや成長速度、繁殖能力を維持できるのが特徴です。車（牛車や馬車）の轍（わだち）跡にも生えていることから、生薬名を車前草と名付けられました。和名のオオバコは大葉子で、大きな葉を持つ植物という意味です。種子は水分を含むと粘液質の多糖で覆われ、靴の下などに付き、分布を広げて行きます。この種子は、水を含み膨潤するので、便秘薬などにも配合されています。また、オオバコダイエットも同じ理屈です。中国料理では、葉をスープやお茶などに用います。日本では、昔から全草を煎じて咳止めや去痰薬として利用されてきました。種子は、漢方薬の牛車腎気丸などにも配合される重要な生薬です。

## カラスビシャク(サトイモ科)

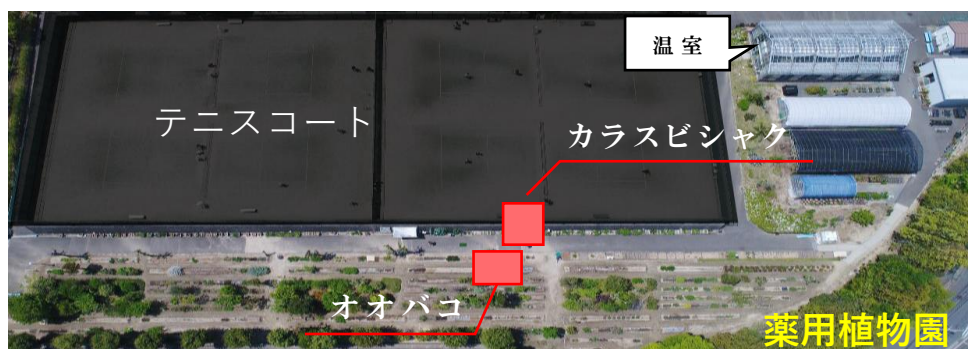
*Pinellia ternata* Breitenbach

部位	コルク層を除いた塊茎	
生薬名	半夏（ハンゲ）	日本薬局方収載
成分	ホモゲンチジン酸（えぐみ成分）	
薬理	鎮吐作用、鎮咳作用、抗ストレス作用	
薬能	化痰薬	
漢方	半夏厚朴湯、半夏瀉心湯など	



“へそくり”の語源という説も

日本、中国、朝鮮半島に分布する多年草。田畑の畔や草地で見られます。種子に加え、むかご（珠芽）や塊茎でも栄養繁殖し、広がっていきます。しかし、栽培化が難しい植物としても有名で、摩訶不思議です。塊茎は、重要な漢方生薬で価格が高いことで知られています。生薬の形から「へそくり」とも呼ばれていた様です。昔、農家さん達が作業の合間に、これを掘りだして薬屋に売り、こっそりと小銭を稼いだそうです。このことから、内緒で小遣いを貯めることを「へそくり」と呼ぶようになったという説があります。多くの漢方薬に配合されていますが、生でかじるとえぐ味が強く、喉に何十本もの針が刺さった様な刺激に見舞われるので注意が必要です。



ホームページでも  
ご覧いただけます